

令和4年度 学校自己評価表（報告）

学校運営計画			
学校運営方針	教育目標の実現に向けて、全職員の英知を結集して取り組み、高校3年間で“生きる力”を身につけさせ、自立し、社会貢献できる人材の育成を目指すとともに、生徒一人一人の適性・能力を生かした進路目標の実現を支援する。		
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標	
・ICT機器の活用やITでの教科指導、また授業各所の『学び合い』など、生徒の理解や進度に対応した授業を行い、協働して粘り強く課題に取り組む姿勢を育んだ。今年度も、生徒が主体的に授業に臨み、基礎基本の確実な定着を図れるよう支援する。 ・生徒一人一人の個性や特性を、担任を中心に養護講師やSCと連携を図りながら職員全体で情報を共有し、生徒の進路内定につなげた。今年度も組織的に対応して生徒の進路実現を目指す。 ・進路だよりや学校HP、また学校通信を活用し学校の教育活動の様子や情報を積極的に発信し、保護者や地域との連携の土台となる共通理解をつくる。	1 基礎・基本の確実な定着を図り、生涯学んでいく意欲を培う	(1) 教育のユニバーサルデザイン化を推進し、すべての生徒がわかる授業の展開 (2) 生徒の主体的な学びを促し、分かりやすく知的好奇心を喚起する授業の展開 (3) 基礎基本の確実な定着を目指し、生徒同士が教え合い、学び合う授業の展開	
	2 生徒一人一人の個性の伸長を図り、粘り強く課題に取り組む姿勢を育む	(1) 各種体験活動や進路講演会等とおとしたキャリア教育の充実 (2) 授業における発表活動、プレゼンテーション活動等による表現力、問題解決能力の涵養 (3) 生徒一人ひとりの個性に応じた、幅広い視点を持った進路指導の推進	
	3 他者との協働をととして、豊かな人間性や社会性を涵養する	(1) 部活動や学校行事をはじめとする教育活動全般に、生徒が意欲的に取り組むための支援 (2) 人間関係形成能力を伸長するための、グループエンカウンター等、各種取組の実践 (3) 自己有用感を高めるため、地域活動、ボランティア活動など、地域社会の一員としての役割を果たす活動の推進	
	4 清潔で落ち着いた学習環境の下、すべての生徒が安心して過ごせる学校づくりを進める	(1) サポート委員会を中心とした、生徒一人一人を支援する取組 (2) 「学校いじめ防止基本方針」に基づく組織的な指導の実践 (3) メディアリテラシー、SOSの出し方等の授業実践の充実	
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
①基本的生徒と安全教育の充実 ②生徒会活動の充実 ③個に応じた実効ある支援の実施	家庭や地域との連携理解のもとで指導に当たる。	規律ある高校生活を送るよう、身だしなみやルールの遵守など規範意識の啓発に努める。	A
	校舎内外の環境整備並びに、健康意識の向上を図る。	バイク実技講習会（年1回）を実施する。 毎学期始めに頭髪服装検査を実施する。	A
	生徒の自主的な活動を充実させる。	清掃習慣の定着と校舎内外の美化に努める。 各学年の実態に合わせた保健講座を実施する。 保護者との情報共有に努め、必要に応じて専門機関との連携を図る。 保健だよりを適宜発行し、健康に関する知識と理解を深める。	A
学校生活への適応を支援する。	生徒の自主的な活動を充実させる。 生徒会総務が主体的に行事の運営ができるよう、各行事前に適宜、総務委員会を開催する。	体育祭や文化祭などの学校行事毎に、クラスで実施計画書を作成し、計画段階から生徒が主体的に取り組めるようにする。 生徒会総務が主体的に行事の運営ができるよう、各行事前に適宜、総務委員会を開催する。	A
①基礎学力の定着 ②授業改善の取組	学習意欲の向上、学習習慣の定着を図る。	日頃から教職員間、サポート委員会で生徒情報の共有化を図る。定期的にサポート委員会を開催し、職員会議時に「生徒情報交換会」を実施する。	A
	教育課程及び授業内容の充実を図る。	特別支援教育研修会（年1回）を実施する。 派遣されたスクールカウンセラーを有効に活用しながら、自立支援の必要な生徒及び保護者を対象とした教育相談を随時実施し、必要に応じて外部関係機関と連携を図る。	A
	年度始めにシラバスを生徒に提示し、年間計画と評価方法を周知するとともに、シラバスに基づいた計画的な授業を実施する。 学期ごとに、成績不振者と希望者に対する補習を実施する。	選択科目説明会を実施し、生徒の進路目標にあった科目選択ができるよう指導する。 年間を通じて授業公開を実施する。また年2回の授業公開月間を設け、授業改善の研修会を実施する。 教育課程に則した学習計画を作成する。	A
進路意識の啓発とキャリア教育の充実	早期に進路意識を啓発するために、「総合的な探究の時間」を活用して、各種事業を展開する。	進路だよりを発行し、生徒や保護者への情報提供に努める。 新入生の進路指導室活用促進のため、進路オリエンテーションを実施する。 進路希望調査を各学期に実施し、生徒の実態を把握するとともに適切な指導に生かす。 学年との連携を密にし、指導の徹底と生徒に関する情報の共有化を図る。 生徒・保護者を対象にした進路意識啓発のための講演会を開催する。 進路ガイダンスを年2回開催し、情報収集に努めるよう指導する。 総合的な探究の時間における進路指導の充実を図り、キャリア教育を推進する。	A

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価			
	ジュニアインターンシップ、オープンキャンパスを効果的に実施する。	2学年全員を対象にジュニアインターンシップを実施し、その報告会を開催して、進路意識の啓発を図る。 進学先の理解を深めるため、オープンキャンパス等への参加を促す。	A	A	A	
	進学希望達成のための模試、補習を実施する。	進路先に応じた模試を計画的に実施し、課題を把握するとともに、学力を伸ばすため、補習等を実施する。	A			
	保護者や地域との連携強化	保護者面談週間や必要に応じて保護者面談・三者面談を利用し、保護者と職員の相互理解を深めるとともに、共通理解のもとで生徒一人ひとりの問題解決を図る。 PTA役員と協力し、PTA総会・学年PTAなどへの参加者増を図る。 役員会などを通じて研修会等への参加を促し、参加者増を図る。	A A A			
	PR・広報活動をより活発にし、本校の認知度を高める。	PTAだよりを年2回発行し、学校の様子やPTA活動の周知を図る。 ホームページを月1回以上更新し、より多くの人に学校の情報を発信する。	A A	A	A	
	学校評議員や地域など、外部からの意見を積極的に受入れ、学校運営に生かす。	「地域の声を聞く会」(年1回開催)で指摘された問題点を整理し、次年度の学校自己評価に取り入れる。	B			
読書指導の充実	生徒・教職員が授業で活用しやすい図書館とする。	国語科と連携して図書館だよりを定期的に発行し、積極的に広報活動を行う。	B	B	B	
		生徒・教職員にとって必要な資料収集を行い、来館者数の増加を図る。	B			
		図書館司書と連携し、図書館の環境整備を進め、図書委員会活動を活性化させる。	A			
人権教育の推進	生徒の人間関係等に係る課題解決に向けて組織的に取り組む。	「学校いじめ防止基本方針」をより実態に即した内容に適宜見直し、組織力を強化する。	A	A	A	
		いじめ実態把握アンケートを実施し(年3回)、教職員で情報の共有を図る。	A			
		人権に関する生徒対象の講演会、職員対象の研修会を実施し、人権意識の啓発を図る。	A			
1学年						
2学年	①自己管理能力の育成 ②基礎・基本の確実な定着 ③進路目標の明確化	挨拶・言葉遣い・筆記の仕方に注意を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。	A	A	A	
		生活リズムや体調管理、学習習慣の確立について指導し、自己管理能力の向上を図る。	A			
		体育祭、文化祭などの学校行事を通して生徒同士の交流を促し、学年をまとめることのできるリーダーを育成する。 修学旅行では、平和の尊さを認識するとともに、人権尊重の意識を高められるよう指導する。また、実際に現地で見ることによって、自分の地域との違いを知り理解できるよう指導する。	A			
	進路にかかわる学習活動を積極的に行い、進路目標の早期決定を図る。	ジュニア・インターンシップ等による経験をもとに、進路目標を早期に設定させ、目標に向かって努力するよう指導する。	A	A	A	
3学年	①自己管理能力の伸長 ②進路実現に必要な実力の養成 ③進路希望の実現	生徒の個別面談を実施し、生徒一人一人の進路希望の実現を支援する。	A	A	A	
		LHR・「総合的な探究の時間」・放課後の時間を有効に活用し、生徒一人一人の適性を見据えた進路指導や面接・出願指導を行う。	A			
		進路指導部主催の講演会を活用して進路情報を発信し、進路意識を啓発する。また、保護者面談を行い、保護者との情報共有に努める。	A			
		身だしなみ・挨拶・受け答えなど社会人として求められている所作について指導する。 LHR・「総合的な探究の時間」を活用して講演会を実施し、社会に対する視野を広げ、社会人として必要な教養を身に付けるよう指導する。	A A			
	生活手帳を用いてメモをとる習慣を身に付けさせ、自己の行動を振り返り、計画的に行動できるよう指導する。	B				
成果	「協働的な学び」と「個別最適な学び」を実施するため、継続して個別支援シートを作成し、個に応じた学習指導、生徒指導の充実を図っている。授業や総合的な探究の時間において、ICTを利活用した授業実践を進めていく中、互見授業や意見交換会などの校内研修をとおして授業力改善に向けた取組を推進している。新型コロナウイルス感染症や荒天により登校できない生徒に対しても、オンラインで授業を配信することで学習保障を行っている。新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、生徒会を中心に各種行事内容を工夫し、生徒の主体性を尊重、育むよう教育活動を展開した。個別面談を充実させ、生徒一人ひとりの悩みに寄り添い、スクールカウンセラーなど外部機関と連携しながら、対応した。生徒が自己肯定感、自己有用感を高められるよう、地域と連携しながら教育活動を進めていくことが重要である。			総合評価 A		